




教材教具説明シート

名称	複数方向輪抜き		
関係する教科等	自立活動	区分・項目	4 環境の把握 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること
使用対象	<ul style="list-style-type: none"> ・手探りで物を操作する児童生徒 ・他者からのやり取りを受け入れにくい児童生徒 		
使用目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手だけで輪を動かすのではなく、折れ曲がり正しく見極めて引っかからないように輪を動かして、手と目の協応性を養う。 ・教師の言葉がけで輪を動かし始めたり、教師が指示した箱に輪を運び入れたりして、教師とやり取りする力を高める。 ・教材を扱う中で始点と終点を理解していく。 ・パイプの長さや折れ曲がりの数を調整して児童の実態に合わせ、スモールステップで成功体験を積み上げる。 		
活用時の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>・さまざまな長さのパイプを組み替えて使用する。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>・手元に目を向けて輪を抜こうとする児童。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>・輪を入れるように箱を提示する教師。</p> </div>		
効果・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由がある児童の体の動きに合わせて、より短いパイプを用意した。 ・まだ手探りだけで輪を動かして箱まで持っていけないときもあるが、輪を箱に入れ終わるまで見続ける場面もあった。その他の指導と合わせて、今後も手と目の協応性を高めていきたい。 		